Letter of the M.Y. elementary school

ひ び き　南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい　かがやく子 ～

学校通信　NO.326
令和５年度 8･9月号
令和５年８月２８日

夏の思い出は…

校長　鈴木　智彦

ゆかたみーなちゃん

「子どもの時の夏の思い出は？」と聞かれたら、何を思い浮かべるでしょう？

私は、夏の暑い日差しを感じた海やプールよりも、夜の盆踊りが浮かびます。

実家が商店街で店を営んでおり、夏のイベントとして、私は毎年、その盆踊りに参加させられていました。

少年野球に入っていた友達は、チームのユニフォームを着て、チームでそろって踊っているのですが、私は、商店街のおじさん、おばさんの後ろで法被も着ず、普段着で踊っていました。同じユニフォームを着て堂々と踊っている友達に、うらやましさと引け目を感じながらも、商店街の一員としての自分を感じていました。

今年は、これまで感染症拡大防止の観点から見送られてきた地域行事が４年ぶりに復活しています。

７月２２日には「虫送り」が行われました。午後６時に山田神社を出発し、提灯とお囃子を先頭に、「よーいよい」と掛け声をかけながら１５０本の松明を持って練り歩きました。８月４・５日には南山田町内会の納涼盆踊り大会、８月５・６日には北山田町内会の夏祭りがありました。

松明を持って練り歩いたり、見よう見まねで盆踊りを踊ったり、嬉しそうにかき氷を頬張ったりする子どもたちの姿に、地域行事のよさを感じました。

普段なら、家にいるはずの時間に、家族や友達と普段と違うことをする非日常的な空間。辺りが暗くなり、松明や提灯の明かりに彩られた幻想的な景色に、繰り返す太鼓やお囃子の響き。諸感覚が刺激され、「誰といたか」「何をしたか」は、子どもたちの夏の思い出として、大きく残るでしょう。それが、自分が育った「まち」への想いにつながっていくのだと思います。

毎年続けるのも大変ですが、一度、途絶えたものを復活させるのは、それ以上の尽力が必要だと思います。こうした場を提供してくださった、地域の皆様のご苦労に感謝いたします。また、その想いにこたえられる南山田小学校でありたいと思います。